
うだうだな学園もの。

八年前

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うだうだな学園もの。

【Nコード】

N3342X

【作者名】

八年前

【あらすじ】

ただ高校生キャラがどこにでもありそうな日々を送っているだけの誰得小説です。きはんは皆高？。サザさん方式で基本ぐだぐだ。ごくまれにまじめ。それだけです。

キャラクター紹介（前書き）

おふざけ程度の同性愛表現が含まれていることがあります。少し
でもそうだったものが駄目な方は、閲覧をお勧めしません。

キャラクター紹介

主人公 染谷 梨佳 女 見た目 162? スタイルはいい。髪は黒のセミロング。制服はブレザー。性格 常にポジティブ。少々バカで天然。

主人公の親友 藤野 香織 女 見た目 167? 貧乳。髪はこげ茶でショート。制服はセーター。性格 ギャルっぽい。おしゃれ。梨佳のことを溺愛している。ちよつと行き過ぎ。

三馬鹿1 - 高坂 史哉 男 見た目 186? 細マッチョ? 髪は黒。ワックスで上げてある。制服はブレザー。性格 バカだけど常識人。突っ込み担当。

三馬鹿2 - 三谷 蓮 男 見た目 155? のチビ。髪は灰色っぽい。制服は大きめのセーター。性格 短気。階段からよく落ちるのでたいていケガをしている。皆の弟的扱い。

三馬鹿3 - 原田 健一 男 見た目 175? 髪は明るい茶色。染めた。ピアスあけまくってる。制服はカーディガン。性格 チヤラ男。軽い。でも頭がいいのがイラつく。なぜか不眠症。目の下のクマがすごい。蓮に過保護。

後々出てくるキャラなんかもいると思います。 駄文でしょうがよろしく願います。

主人公たちの日常（前書き）

おふざけ程度の同性愛表現が含まれていることがあります。そういったものが苦手な方は閲覧をお勧めしません。あと、キャラクター紹介を読んでいかなないと何を言っているのかわからない部分があるかもしれませんのでご了承ください。

主人公たちの日常

登場キヤラ 主人公・親友・三馬鹿1

目線 主人公

「ねえねえ梨佳！一緒に弁当食べよ！」

「いいけど、お昼休みにね？」

まだ二時間目終わったばかりだよ？

「あははっ！とられないように予約ー」

香織ちゃん…たまに変わったこと言うよね…。

「おー、いつみても仲いいな…」

あ、高坂君。

「そりゃー仲はいいよ、あげないよ？」

「いらんわ」

「そういえば三谷君と原田君は？」

「あいつらは次の時間体育だよ」

「かわいいそうにww」

「うっせ」

香織ちゃん…いくら高坂君だけ違うクラスだからってその言い方はどうなの？

「でも、クラス変わっちゃって残念だったね…」

「まあな」

去年は、高坂君と三谷君と原田君で「三馬鹿」って呼ばれて、よく先生に怒られてた。今もよくいっしょに遊んだりしてるらしいけど…。

「ねーこーさかってすきなひといるの？」

「急に話が飛んだなおい。そこで俺が染谷とか答えてたらどうすんだよ」

え、ちよ、巻き込まないで！

「渡すもんか絶対に！キサマに梨佳はやらん！」

「いや冗談だし」

「…おい香織ちゃん？何言ってるのー？」

おかしいことになってるよー？

…まあいつか。いつものことだし。

「もう席戻った方がいいよ！先生くるし」

「そだね！おベント食べよーねー！」

…香織ちゃん、かおはかわいいのになー…

三馬鹿の日常（前書き）

この作品にはおふざけ程度の同性愛表現が含まれていることがあります。あと、キャラクター紹介を読まないと言っているのこいつと
なることがあるのでご了承下さい。

三馬鹿の日常

登場キャラ 三馬鹿 1・2・3

目線 三馬鹿 1

「うわっ」

また蓮が歩道橋から転げ落ちた。なんであんなに落ちるのか不思議だ。頭を強く打つたらしく「いつてー」と手で押さえている。

「大丈夫ー？」健一が歩道橋の上から呼びかける。

「あー大丈夫大丈夫」…思いつきり頭から血イ出てんだけど!?

「ちよっ、どこが大丈夫？今降りるからまってるよ!?!」

「うわー過保護発動したためんどくせえ」うわーこいつ1つも怪我したこと反省してねえ。

「レンどこ怪我した?…あーひどいなこれ…。包帯とかは…ないよな。フミヤ持ってない?」

「家にはあるけど、ここには…」普通ねえって。

「あーくっそおれも今切らしてるからな…フミヤん家寄っていい?」

「あ、ああ…」普段は包帯とか持つてんのかよ、すげーなおい。

…これが日常って正直どうなんだ?

チビたる所以（前書き）

この作品にはおふざけ程度の同性愛表現が含まれていることがあります。あと、最初のキャラクター紹介を読んでおいた方が理解しやすい部分もあります。ご了承ください。

チビたる所以

登場キヤラ 三馬鹿2を除く全員

目線 主人公

香織ちゃんと話していると、高坂君と原田君がやってきた。

「おはよう」

「はよー、あれ、チビの方は？」香織ちゃん…。

「レンは今日学校来てないよ。多分さぼり」

「へーチビもさぼるんだ。なんか意外」

「あいつ結構さぼってるよ」

三谷君チビで定着しちゃってる…。確かに私より小さいけど言い過ぎな気がする。

「…なんであいつチビってことになったんだ？まだ伸びるかも知んねえのに」

高坂君最高のタイミング！ナイス！

「いやあれは小さいって」

「しかも多分もう背伸びないしね。確か中2くらいで成長止まっている」

あー…それは小さい。チビでもいいかな…。

「え、マジで？俺だってまだ背え伸びてんのに」

「フミヤその調子なら190超えそうだね」高坂君大きい！いいな！

「…香織どうしたの？さつきからずっと黙ってるけど…」

「あ、えつとー…」脳内では参加してたよ、うん。

「えー、この話絶対三谷君には聞かせられないなーって考えてた」
言い訳ですねー。

「確かにww」言い訳通用したしww

そんなこんな話しているとチャイムが鳴った。私はこの話をチb…三谷君には言わないでおくことを心に誓ってみた。

夢（前書き）

この話にはほんの少しグロテスクな表現が含まれています。後、最初のキャラクター紹介を読んでおかないと訳が分からない部分があると思います。ご了承ください。

夢

登場キャラ 全員

目線 ???

その夢の中で、おれは普通に皆と話しながら下校していた。なんてことはないたわいのない話。ふつうなら歩道橋の下で皆と別れるのだが、さすが夢、そんなことはお構いなしだ。

赤信号の前で、おれはほどけてしまった靴ひもを結びなおしていた。途中で信号は青に変わったが、まだ靴ひもを結べていない。

「先行つてて」皆は歩き出した。

次の瞬間、暴走トラックがやってきてすべてを轢きつぶした。

靴ひもを結び終えてやっと歩き出したおれ以外のすべてを。

皆の悲鳴が聞こえて、世界は赤く塗り潰された。おれはこれが夢なんてことはすっかり忘れて「冗談だろ」と呟いた。

皆はどれが誰だかわからない位にグチャグチャに潰れていた。世界が歪む。形を保っているのはおれだけだ。

空だけが腹立たしいくらい青い。蒼い。世界は赤い。紅い。おれはただグチャグチャに混ざり合って赤だか黒だか白だか分からない塊を何もなく眺めている

目が覚めた。そうか、これは夢だ。悪夢だ。

夢だからこんな超展開あり得るんだ。現実でこんなことおこるわけない。

そう結論づけて時計を見る。午前2時。まだ深夜じゃねーか。こんな夢見た後眠れるわけねーだろ。どうすんだよ。だから不眠症って言われんだよおれ。

とりあえず、これが正夢にならないことを祈りながら布団を出た。

夢（後書き）

これ短編でよかった気がする。誰目線とかあんま考えてなかった。不眠症って！怖いよね！…それだけです。

兄弟事情（前書き）

最初のキャラクター紹介を読んでおいた方が分かりやすいと思います。ご了承ください。

兄弟事情

登場キヤラ 全員

目線 主人公

「兄弟いる人ー」

また香織ちゃんが変なことを言い始めた。なんで急に……。とりあえず

「ハイ」

「なんで急に……とりあえずハイ」

「一応」

私と高坂君と三谷君かー。思ったより多くてちよつとびっくり。

「へーどんな？」……人の兄弟をもものように……。

「妹が一人」 高坂君

「弟とお姉ちゃんが1人ずつ」 私

「姉夫婦」 三谷君

「へーどんな？」……同じセリフの繰り返しなのに意味が変わった！

「おれも気になる」 原田君すごい棒読み！あんま気になってない？

「お前史哉と俺の兄弟は知ってるだろ……」それでか。

「うん。リカちゃんの兄弟は知らないけどね。」

「あー。なあ、染谷さんの兄弟ってどんなひと？」話が戻った！

「お姉ちゃんは朱莉って言って、私より3つ上。似てる……らしいよ

？」私はそうは思わないけど……。

「……まあ、主観と客観は違うもんだろ」私たまに三谷君が怖い。

「弟はどんなん？」

「悠太は今中1。かわいい。超かわいい」伝わらなくてもいい！と

にかくかわいい！

「………そんなにか」

「……香織ちよつとブラコンなの……。二人の兄弟はどんななの？」

「説明面倒くせえ」

「……おれ代わりに説明しようか？フミヤ先にどうぞ」

「え、あ、ああ…。俺の妹は史絵って名前だ。フミエじゃねーぞ。年齢は14」

「へー、似てる?」

「似てるといえば似てる」

「かわいいよねシエちゃん。レンのお姉さんはあやめつつって、すげえ似てない。あと結婚してて、アヤメさんの旦那さんもレンの家に住んでる。」

「へえ…。似てないってことは背高いの?」

「なんでそうなるんだよ。確かに180以上あるけど…」

「でかつ」…復活。女の人で180?以上は大きいよね…。

「お姉さんの旦那さんってどんな人?なんで三谷君の方の家にいるの?」

「レンの家すげーでかいからな!。人減るとスッカスカになるもんな。…あやめさんの旦那さんってなんて名前だっけ」

「葵」…植物一家!お父さんとかお母さんはわかんないけど。

「で、どんな人なの?」

「なぜ食いつく。…普通にいい人だけど」

「身長は?」

「…195位だつつつた」おー、お姉さんより大きいのか。

…10分休憩なのにこんなに話し込んで大丈夫だろうか…。

ゲーム大会

登場キャラ 全員

目線 主人公

「さー始まりました男女対抗ゲーム大会IN三谷家ー」まだ三谷君の家の前だけだね。てか広い！

「ただいま、友達連れてきた」三谷君は香織ちゃんを完全無視して家に入っていく。

「お帰りなさーい、あらお友達？何も無い家ですが上がって上がって」

何も無いとかどこが？すごい庭広いし池あるし縁側とかあるじゃん日本家屋じゃんすごいじゃん！何してればこんな家住めんの？

「広いねーなんでこんな家住めんの？」…考えてたことは香織ちゃんも同じだったみたい。

「先祖の努力だろ。部屋こつちな」

ついた。テレビでかい。片付いてる。ゲーム多い…。

「ゲームどれにする。テレビゲームがいいと思うけど」

「あ、これこれ！これがいい！」香織ちゃんはマリオカートを手に行っている。あれならみんなまでできるか…。

「そういえば人数の都合により三谷には参加を辞退してもらいましたー」

「え、いいの？」

「ああ」

どうせいつでもできると言うことらしい。でもなんか悪いな…。

「えーレンいれば絶対勝てると思ったのにーチート級の強さなのに…いなくてよかったかもしれない。」

「じゃあ始めるよー。皆キャラ決めて」

そんなこんなでコース決めまですんでゲームが始まった。

「あー！落ちた！」高坂君ぶっちぎりで最下位…。ことごとく障害

物に引つかかる。

「ちよ、誰赤コウラやったの！あ、ぬかされた！」

「あーおれ。悪い悪い」香織ちゃんと原田君が1位争い。アイテム使いまくってお互いを足止めしている。それでも速い。

「…バナナの皮多くない？」私は真ん中の方で、前の2人のアイテムの残骸がすごく多くて大変…。

「あーまた滑った！」

「…フミヤそこまで行くと逆にすごいね」

皆もうすぐゴールなのに高坂君だけまだ二周目…。ゴールできないんじゃないかな…。

「やった勝ったー！」

「くっそ負けたー！」

香織ちゃんが僅差で勝った。まあ原田君が1位でも総合ならこっちのチームが勝ちだろうけど…。高坂君いるし。

「ねーねー勝ったから1回三谷戦わして！」

「…はあ。」

つてことで香織ちゃんと三谷君の1対1の勝負が始まった。

「え、うわ、速！そして強っ！」

「……………」

三谷君すごい速い。障害物もほぼ全部よけている。絶対本気だよね…。無言だし。

「あー…」三谷君、香織ちゃんと半周以上の差をつけてゴール。チーム戦のときいなくてよかった…。

「…まあいつか！チーム戦では勝ったし！」

「そうか。もう帰った方がいいと思うぞ」ホントだ。もう日が暮れる。

「そっだね！じゃあねー」

「あら、もう帰るの？何もお出しできなくてごめんなさいねー」…

そっいえば三谷君のお母さん身長高いなー。お父さんが低いのかな。

「いえいえ！こちらこそお邪魔しました！」楽しかった！勝ったし！

小テスト

登場キャラ 全員

目線 主人公

今日小テストが返ってきた。そのテストは100点満点で、私のクラス、1組の平均点は53点だった。

「香織ちゃん、テストどうだった？」

「ふふん、83点！梨佳は？どうだった？」わー83点なんてすごい！そしてその点数の後つて超答え辛い！

「おー、何の話してんの？」原田君割り込みナイス！てか原田君と三谷君の二人いっつもこっちのクラスに来てるような…。

「いや、さっき小テスト返ってきたから、その話。ついでにそっちはどうだった？」

「…そんなのあったっけ」

「ちょ、レン何言ってるの？2時間くらい前に返ってきたばっかだよ？」

「あーあつたなそんなん。でも、都合の悪いことは忘れるしかねえって」

いいなー。私もそうやって忘れるスキルほしい。超ほしい。

「でさ、何点だった？」

「……………97点」え、なにそれ原田君ずるい。何がかは知らないけどずるい。

「え、なにそれカンニングでもしたの？」

「してないよ！唯一カンニングできる位置にいる奴学年最下位だし！」

「そつ言う問題かよ」

…あとでそのカンニングできる位置にいる人に謝つといたほうが…。聞いてないだらうけど。

「でもさあ、なんか逆に悔しくない？！むしろここまできたなら1

00点取りたかった！ケアレスミスめ！」…え、その気持ち全然わかんない。ホント頭いい人は違うねえ。

「あー分らないけどわかる。染谷さんはどうだった？あと史哉逃げんな。」あーせっかく逃げてたのに聞かれたー！そして全然話に入ってこないと思ったら逃げようとしてたのか！高坂君ずるい！

「いや、全然逃げようとなんかしてねえし？」

「お前せっかく健と二人がかりで教えてやったんだから10点以上上がってないとキレルぞ？」

「…ちよつど10点上がった」

「そうか、12点か。お前運動神経いいのはいいけど勉強もちゃんとやれよ？」

「…はい」

…三谷君怖いよ。あと高坂君の点数さらしたよ。てか前の小テストも100点満点だったよね？…二点？

「そm」三谷君は？どうだった？」言いたくない言いたくない言いたくない…

「…。…5…4点。そつちは？」あ、嘘ついた。じゃあ多分勝てる！

「53点だったよー」超平均点。私たいてい平均点との差が5点以内なんだよね…。

「レンそれクラスの平均点でしょ？80点くらい取れてたじゃんなんで嘘つくんだよ」…え？

「いや…うん」あー！騙された！勝てると思っただ自分が憎い！

「…つーか皆頭いいな」…正直に言つと高坂君は少し頭悪いよね…。確かに皆頭いいけど。

ピアス

登場キャラ 三馬鹿1・2・3

目線 三馬鹿1

「健。ピアス増やした？」

それは階段から落ちた直後にする質問か？

「あーうん。今度舌にも開けてみようと思っただけどどう思う？」
お前も普通に答えてんじゃねえよ。慣れなきゃいけないのか？これは。

「あーいいんじゃないの？好きにすれば？」 適当だなおい。

「いやね、食事とかの時外し忘れてたらとか考えると結構怖くてさあ、ちよつと迷うってゆーか。フミヤはどう思う？」

「あー…、でもピアスって本当は校則違反だしやめといた方がいいと思うぞ？」

正直に思ったことを口にする。 …… ちよつと待て、何だその顔。ぽかんとすんなよ。そんなに俺が校則とか気にしてたことが意外なのか？

「…：そっぴや校則違反だったね。完全に忘れてた。フミヤ有難う」
…：今度はこつちがぼかんとした顔をする番だった。え、なに、忘れてた？いやおかしいおかしい。確かにこの学校は公立にしては規則は緩いと思う。制服とかあってないようなものだし。でも普通忘れないだろ。

「…：忘れてたって」

「いやあ、こんな開けててほとんど怒られたことないからさー。だんだん意識しなくなっちゃって」

…：素行と成績がいいからか。俺なんかそんなことしたら絶対注意されるだろうに。っつーかなんで真面目なのにこんな不良のような見た目に…。

「フミヤとかレンも開けてみなよー？似合うと思うよ？」

「お前校則違反って言った端からそれかよ。史哉も無視でいいぞ」
「…いいのか」 いいのか？

「いやちよつとくらい大丈夫だってー。ノープロブレム」
「いや大丈夫じゃないだろ。…ノープロブレムってどういう意味だっけ。」

「無問題じゃねえ。ついでに俺は開けてもすぐ埋まる自信があるから嫌だ」

校則関係ねえ。

「俺も痛いのはちよつとな…」

「そんな痛くもないよー？フツ開けてるおれが言っただから確か」

「それはもう慣れたからだろ。あとそこまでやると自傷の領域に見える」

「えーレンには言われたくない」

耳に穴7個と常時絆創膏か…。どっちも痛々しい。

「いや俺は事故だつてうわっ」

また落ちた！…確かにわざとじゃないとこんな頻度にはならないよ
うな気もする。

「おーい！レン大丈夫？」

まあいいや。ちよつどいいからここでピアスの話も何とか流そう。

新メニュー

登場キアラ 全員

目線 主人公

「梨佳、お弁当一緒に食べよう！」

「うん、いいよーでもちよっと待ってねパン買ってくるから」

今日新メニューが出てくるって聞いたんだよねー。買いに行こう！

「ねえ、新メニューってこれかな？ 照り焼きチヨコパン」

「なにそれまずそう」

…確かに、名前はだいがまずそうな…。見た目は割と普通…。うん。買ってみよう。

「これください」

「…梨佳勇気あるねえ…」

まあ、うん物は試しってやつさ！

「おー、ほんつと二人仲いいな」 あ、高坂君。三馬鹿皆いる。

「いやいやあんたら三人ほどじゃないって。ああごはん一緒に食べる？」

やっぱりたくさんで食べるのはいいよね…。 あ、そうだ。

「ねえ、これどう思う？ 新メニュー」

「え、なにそれまずそう」

原田君香織ちゃんとおんなじこと言った…。 そんなにまずそうかなあ…。

「香織ちゃん、一口食べてみてー」

「え、うわあそれはきついよ梨佳…。 でも梨佳の頼みなら！ 食べるー！」

うーんやっぱり香織ちゃん優しいよなあ…。 感謝しているよ、ホ

ント」。

「…うわあ…おいしくない…微妙…すごいまずいわけでもないのが
なんか嫌…高坂食べてみなよ」

「ええっ いやいいけど……うっわ微妙、蓮食べてみるよ」

「絶対に嫌だ」

え…何その反応…。一応私も食べてみよう。

「…そんなに微妙かなあ…普通においしいと思っけど…」

「え」

「いやこれ絶対おいしくないって」

えー、そんな反応することなくない？ 私は普通においしいと思っ
たからそういっただけなのに…

「…ゴメン梨佳は味音痴なんだ…。うちもそれだけはどうかと思っ
てるほかは大好きだけど！」

…うーん自分はそんなに味音痴でもないと思うんだけどなあ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3342x/>

うだうだな学園もの。

2011年12月17日23時52分発行